

9月15日(金) ワークショップ第4室(723)

履修方法

清泉女子大学 石田雅近

履修方法に関する調査項目は「授業期間」、「技能検定試験」、「海外語学研修」、「帰国子女・社会人学生」、「シラバス」を中心として11項目に及び、今回の調査結果の主な知見に基づき、次の5点に絞り問題を指摘して行きたい。

1. 多様化する授業期間：「セメスター制」とは何か？
「セメスター制」(24%)、「海外での集中講義」(15%)、「通年制とセメスターの併用」(15%)、「特別集中授業期間」(5%)、「3学期制」(3%)を導入している学部(学科)の合計(62%)は「通年制のみ」(52%)を上回っている。(Q.14) また、「セメスター制」が外国語教育にとって「望ましいと考える」者は52%に上り「望ましいと考える」者(12%)、「わからない」(15%)を大きく上回っている。(Q.15)
★「セメスター制」の定義がなされていないため、その具体的な内容に関する理解は回答者により大きく差があることが考えられる。「セメスター制」を含めて外国語教育に望まれる「授業期間」はいかにあるべきかの検討が急務であろう。
2. 「技能検定試験」の利用「賛成者」は「反対者」を上回る：安易な取り組みは危険？
検定等の技能試験の成果を、入学選抜に代わるものとしたり大学の単位として振り替えることについて、「単位振り替え賛成者」(59%)は「入試利用反対者」(49%)を10%上回っており、「入試利用及び単位振り替えの賛成者」(30%)は「両方に反対する者」(20%)をやはり10%上回っている。(Q.18)
★大学英語教育の進むべき方向を見定め、「技能試験」で置き換えられない教育内容は何かあるべきかの吟味が今こそ我々に問われているわけであり、安易な「利用」は英語教育の存立理由を根底から覆すことになりかねない問題をはらんでいる。
3. 海外の大学で履修した単位を認める傾向が強まる：大学英語教育の空洞化を促進？
「協定校(大学)」(53%)、「認定校(大学・短大・外国語学校)」(40%)に上り「現在検討中」及び「今後も計画なし」は合計3割弱(28%)である。(Q.18)
また、学生の「海外派遣・留学制度」を設けている学部(学科)は6割強(62%)で、「設けていない」(26%)を大幅に上回っている。(Q.20)
さらに、何らかの「海外語学研修プログラム」を持っている大学は7割強となっている。その内訳は、海外語学研修プログラムについては「大学全体のプログラムがある」(59%)と「プログラムを持っている学部と持っていない学部がある」(13%)。一方「プログラムがない」は2割。(Q.21)
★外国語(英語)教育が目標言語圏で行われる傾向は、今後一層強まり、国内では単位を認定するという大学英語教育の「空洞化」が強まると見るべきか？
4. 少ない帰国子女・社会人学生に対する履修上の配慮：今後の大きな検討課題！
帰国子女が英語を履修する際に「(帰国子女用の)特別クラスを設けている」(3%)、「Placement testを行い学力に見合ったクラスに入れている」(5%)、「学力テストを行い学力に見合った単位を認定し履修を免除している」(3%)の合計は11%と少なく、「特にしていない」(30%)の3分の1に過ぎない。(Q.22) また、社会人学生に対する外国語教育の配慮は僅か5%である。その内訳は、社会人学生を受け入れるに当たって、外国語教育について特に配慮は「していない」は49%、一方「している」は5%にすぎない。
★この5%を過去5年間の社会人入学者の増加率と比べて多いと見るか、少ないと見るかは意見の分かれるところである。
5. シラバス提示の傾向は顕著であるものの到達目標の明示は今一步：学生への配慮が最優先されているとは限らない？
シラバスを学生に提示する調査項目(Q.26)では「他の科目のものと一緒に履修要覧等に提示」(59%)、「履修要覧等にシラバス、授業方法等を提示」(41%)、「履修要覧等に授業内容のみ提示」(22%)、「別冊のシラバス配布」(7%)の数値は、自己点検・評価項目の一部として学部(学科)の教育理念・目的等と明らかにしようとする改革の現れとして、一応の評価はできるが、しかし問題はそのシラバスが形式だおれにならず実際に教育効果を上げるのに有効に働いているかどうかであろう。また、外国語(英語)の到達目標が履修要覧・便覧等に「分かりやすく示されている」と思う者は僅か23%にすぎない。「あまり明確ではない」は58%に及んでおり、「示されていない」が16%である。(Q.25)
★この調査項目のキーワード「明確な」や「分かりやすい」はあくまでも教える側の立場からのものであり、この項目については学生側の意見を反映することが最も求められているもののひとつである。